

瀋陽駐在員事務所

中口国境の街とルーブル安

黒龍江省綏芬河市は人口約 20 万人でウラジオストクまで 160 km、ロシア人は市内に限り 15 日間ビザなし滞在が認められている他、ルーブル・米ドルキャッシュの使用とともに、本年 8 月から貿易決済もルーブル使用も可能となり、ロシアの大手銀行も当地に支店を開設しています。昨年はロシア側からの買い物客が街中に溢れていましたが、今年はルーブルが暴落したことから、その姿が今年は激減、昨年活況だったロシア人向けの衣料品店や雑貨店の中には閉店している所も多く見られました。一方でルーブル安によりロシアから主として食品が大量に流入、ロシア製品を専門に扱うショッピングセンターもオープンしています。中国では自国製食品に対する信頼性は極めて低いこともあり、安価なロシア製の食品がシェアを大きく伸ばしています。綏芬河市側商社の話では、「ロシア企業との取引は全て前金で決済、輸出はロシアからの着金を確認した後に出荷、輸入は貨物の到着・検品後支払いを徹底しており、それができない会社とは取引しない」のことで、ロシア企業と決済はルーブル建てが多く、受取ったルーブルは、そのままロシアからの輸入決済に充てるため、為替の変動で損失を被ることはないそうです。前回の視察から僅か 1 年、2 国間のビジネスの姿は大幅に変わり、定点観測の重要性を思い知った出張となりました。



「ロシア商品大市場」



市場内に並ぶロシア製ビール

南 敏律

ユジノサハリンスク駐在員事務所

【世界の端】

ユジノサハリンスク市はロシア中心部からかなり離れており、若者をはじめ、文化生活の欠如を痛感している州民の声が頻りに聞こえます。この問題は人口が大陸へ移住する原因の一つにもなっています。最近では文化的な発展を目指した様々な興味深いイベントが活発に開催されるようになりました。8 月ユジノサハリンスクは文化イベントに溢れ、全く興味のない人でも特別な雰囲気を感じました。8 月 21～28 日は第 5 回国際映画祭が行われました。ロシア人の観点では、サハリンはモスクワから一番離れた地域の一つで、あたかも世界の端のようなので、「世界の端」(「On the Edge」)という名前が採用されました。今回の上映期間中は観客 3 万 5 千名が映画を 100 品以上無料で鑑賞できました。ロシア以外にも日本、韓国、中国、インド、イランなどの映画が上映され、その作品の監督・俳優がサハリンを訪れ、観客と意見交換、質疑応答をする場面もありました。日本映画は相変わらずロシア人が好きな宮崎駿のアニメが人気なほか、韓国はキム・ギドクの福島原子力発電所事故をテーマとする日韓共同の「STOP」等が上映されました。日本人女優もサハリンを訪問し、観客と意義深いディスカッションを行いました。今回、私は映画を 11 作品も観ることが出来ました。来年の映画祭が今から楽しみです。



「STOP」主演女優の堀夏子



いつも満席の日本映画

マリア・ヤロヴェンコ

ウラジオストク駐在員事務所

第1回東方経済フォーラムについて

9月3日～5日、ウラジオストク市のルースキー島においてロシア史上初の東方経済フォーラムが開催されました。同フォーラムは大規模な国際会議であり、政界・ビジネス界・学界等の各分野の関係者の社交場でもあります。

今回のフォーラムは15ヵ国地域の代表者が参加し、来場者総数は約2000人となり、外国人参加者はその3割以上を占めました。ロシア側参加者については、プーチン大統領をはじめ、メドベージェフ首相、ガルシカロシア極東発展相、ミクルシェフスキー沿海地方知事、ロシア国内大手企業の関係者等、多くのトップクラスの関係者が出席しロシア国内外において大きな注目を集めました。同フォーラムの内容は、複数の本会議の他、各経済分野で設けられた分科会が行われましたが、その共通テーマはいかに産学官民連携を生かし、ロシア極東地域の全面的な発展及びアジア太平洋地域への統合を実現すべきかでした。上記の発展・統合の必要性が指摘されて久しいですが、ロシア極東発展省をはじめとする関係省庁は、これまでの失敗を反省し、新型経済特区やウラジオストク自由港等、全く新しいプロジェクトを本格的に実現しようとしており、外国企業や銀行との連携も重視している姿勢を明確に示しているなか、今後の取組から目が離せません。



国際会議の会場の様子



参加企業のブース前

イワン・モズゴヴォイ

カシコン銀行

「バンコク都内の温浴施設」

しばらく海外に滞在していると、日本の銭湯や温泉に入りたくなるのは私だけでは無いと思いますが、実はバンコクにもスーパー銭湯があります。バンコクは世界中のありとあらゆるサービスが利用出来る都市ですが、その質は高くないものも多く、まったく期待せずに行ってみたところ、予想を裏切るハイクオリティでした。高層ビルが立ち並び、世界一の渋滞都市という喧噪の中に、竹で覆われた清閑な空間があります。

価格は入浴料が450バーツ（約1,600円程度）で、3つの大浴槽と露天風呂、そしてサウナに水風呂もあります。タイ古式マッサージ1時間とセットすれば、790バーツ（2,800円程度）と日本の金銭感覚と合わせても、相応の価格でサービスを受けることが可能です。

タイ国内にも温泉という文化はありますが、多くは山々のある北部で川をせき止めて入浴するという温泉が多く、いわゆる日本のスーパー銭湯のような施設はございません。北海道でも多くの入浴施設がございますが、海外進出の足掛りとして、また、バンコクでのお仕事の疲れを癒すために、バンコクへお越しの際は立ち寄られてはいかがでしょうか。



スーパー銭湯 外観



スーパー銭湯内部の中庭

伊藤 彰浩

日中経済協会 北京事務所 札幌経済交流室

「中国(広東)国際旅遊産業博覧会 2015」

中国国内最大級の旅行博「中国(広東)国際旅遊産業博覧会 2015」が、9月11日から13日まで広州市の広州・中国進出口商品交易会琶洲展館で開催されました。

今回11回目を迎える同旅行博は約50カ国・地域から3,000の団体が参加し、総出展数5,000コマ、実施面積100,000㎡、一般来場者数延べ500,000人等々、その規模から中国を代表する旅行博として位置付けられています。

当室(札幌市)は、北海道観光振興機構、北海道、道内自治体、民間企業と協力し、「北海道・札幌市」として共同のブースを出展しました。ブース内では北海道内の観光案内パンフレットの配布、来場者の質問対応、アンケート抽選会等を行いました。特に人気が高かったのが、北海道の風景を背景にした浴衣姿での記念撮影です。背景は「富良野のラベンダー畑」、「定山溪温泉」、「花火」を用意しましたが、ひっきりなしに来場者が並び大盛況でした。中国人の方に何らかのPRをする場合、この「体験」というキーワードが非常に良く受け入れられるようです。

道と市、道内自治体、民間企業が全面的に連携するブース出展は今回が初めてでしたが、今後もこの形をベースに官民共同の「ALL北海道」で観光プロモーションを継続していくことが理想的であると感じました。



北海道・札幌市のブース



浴衣姿で記念撮影を楽しむ来場者

小笠原 宅麻